

総務文教委員会会議録

開催年月日	平成29年 1月13日(金)	場所	議会委員会室
案 件	・調査第4号 防災計画について		
出席委員	萩原委員長、関野副委員長、岡本委員、天日委員、渋谷委員、後藤委員		
欠席委員	—	事務局	倉本
オブザーバー	—	傍聴者	—
説明員	—		
開会時刻	10時00分	実会議時間	00時間07分
		休憩時間	01時間54分
閉会時刻	12時01分	延会議時間	02時間01分
次回日程	1月19日 13:30～		
要 点 記 録	<p><概 要></p> <p>○事務調査第4号「防災計画について」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画全体について <ul style="list-style-type: none"> ・地域防災計画に加え、具体的な行動を想定した行動計画の策定も検討されたい ・災害発生時における情報発信のあり方について <ul style="list-style-type: none"> ・スピーカー搭載車が何台あるかなどの広報手段のチェックも必要。 ・自主防災組織の設立や活動の推進、災害対策本部との連携について <p>◎設立について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設立にあたっての作業量、設立後の使命感などがプレッシャーになっていないだろうか。 ・去年は災害が多発し、防災への意識が高まっていると推察されるので、今回を逃すと意識も意欲も低下してしまう。 ・ただ設立をお願いするのではなく、さきの災害で何を学んだかが形になれば、自主防災組織の必要性を周知することができる。 ・設立が進まないのは、組織名に「自主」と入っているからか。 ・地域と行政が互いに設立しなければならないという意識を醸成しなければならない。 <p>◎活動の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政から自主防災組織に対して、定期的に何かしらの情報を発信して、活動の推進を図る必要がある。 ・山部では全地域で設立されているが、避難時の体制に課題を残している。設立後は地域に任せっきりにしないことが大切である。より実効性を高めるため、自主防災組織に望まれることを周知されたい。 <p>◎災害対策本部との連携について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報交換を密にして地域の方々の避難誘導などをするのが本来の姿。 ・避難所運営の体制づくりと職員等の役割について 		

	<ul style="list-style-type: none"> ・山部での避難所開設にあたり、各担当の人の割り振りなど問題点を総括したか。 ・避難指示のときの初動体制と避難所での初動体制をどう確立するか。 ・車で避難する方にエコノミークラス症候群の注意喚起が必要である。 <ul style="list-style-type: none"> ・備蓄について <ul style="list-style-type: none"> ・非常食の12とはどのような中身なのか。 ・行政が最低限確保すべき基準を定める必要がある。 ・道路が寸断されたときのことを考慮して備蓄場所を検討すべき。 ・食品に限らず乳幼児や高齢者にかかる物品を優先的にそろえたい。 ・行政で防災関連グッズや食料の備蓄ができないなら、個人で揃えられるような仕組みが必要になる。 ・平時から備蓄をしている市民でも、何らかの事情で持って来られなかった方もいると思うので、その対応も考えなければならない。 <p>○次回の委員会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中間報告で挙げた残りの要点について意見交換を実施する。
--	--

以上、委員会会議録について富良野市議会委員会条例第27条の規定により、ここに署名する。

委員長 萩原弘之